

2024 大会プレイバック

<マスタース甲子園2024・第21回大会> 2024-2026シリーズ開幕



第21回大会では、各地方予選大会で代表権を得た、大谷室蘭(北海道)、市浦和(埼玉)、豊多摩(東京)、東海大諏訪(長野)、三重(三重)、奈良大付(奈良)、PL学園(大阪)、淡路三原(兵庫)、開星(鳥根)、崇徳(広島)、鳴門渦潮(徳島)、今治北(愛媛)、九産大九州(福岡)、八代東(熊本)、都城工(宮崎)、鹿児島商(鹿児島)、那覇商(沖縄)の17チームに加え、岩手県選抜、愛知県選抜、岐阜県選抜の計20チームが出場しました。このうち、豊多摩OB(東京)、都城工OB(宮崎)は現役高校野球部も甲子園未出場であり、高校創設以来、悲願の甲子園初出場となりました。

出場20チームで計877人がベンチ登録、このうち高校時代での甲子園非出場者は763人でした。最年少は18歳、最高齢者はPL学園OBで87歳の井元俊秀氏が出場しました。井元氏は、PL学園の1期生で野球部を作り、同校が1962年に甲子園初出場した時の監督で、「常勝PL学園」を築き上げた立役者であり、この大会で61年振りの甲子園となりました。また、PL学園OBから1998年夏に横浜高校・松坂大輔氏と延長17回を投げあった上重聡氏が出場しました。元プロ野球選手も7名がベンチ登録。

最年少は18歳の都城工OBの石原 直弥氏、今治北OBの大森 優氏、開星OBの尾崎 翔人氏・山陸 由唯斗氏・大西 風真氏、八代東OBの登尾 哉太氏、奈良大付OBの桑田 龍成氏の7名でした。また、今回21歳である市浦和OBの5名(佐藤 百華氏、鈴木 夏緒氏、吉川 将生氏、加藤 優弥氏、前山 笑吾氏)、愛知県選抜・阿久比OBの山本 裕大氏、東海大諏訪OBの4名(宮下 史也氏、大塚 寧陽氏、有賀 啓吾氏、加藤 隼冬氏)、都城工OBの3名(新森 誠嵐氏、石原 未来斗氏、重草 智也氏)、開星OBの勝部 康平氏、八代東OBの山本 航弥氏、大谷室蘭OBの秋山 想氏の計16名については、高校3年生の夏、コロナ禍により第102回全国高校野球選手権大会が中止となり、各都道府県の独自大会で引退した102回世代の選手です。この大会で高校最後の夏に目指すことすら叶わなかった念願の甲子園の土を踏みしました。

開会式で選手宣誓を行なったのは、高校創立80周年となる今年、現役・OB通じて初の甲子園出場を果たした宮崎・都城工OBの監督・竹内 一博氏でした。夢の舞台を目指す全国の元高校球児を代表し、大会初日、甲子園球場で大役を担いました。

式典司会は高校野球選手権大会の初代学生司会者である山内佑利子氏が担当。また、かつて夏の高校野球選手権大会の開会式入場行進でプラカード係を務めた市立西宮高校OGが、開会式入場行進でのプラカード先導役を務めました。

その他、かつて甲子園に憧れた審判員、スタッフもそれぞれの想いの詰まった甲子園デビューが実現しました。

